

2024 年 2 月 29 日

2023 年度聖路加国際大学大学院  
看護学研究科修士論文

終末期患者に対する音楽療法の効果についての  
スコーピングレビュー

Scoping Review of the Effects of Music Therapy  
for Terminally Ill Patients

22MN015

佐野愛香里

## 要旨

### 目的

本研究の目的は、第1に終末期患者に対する音楽療法の効果について先行研究で明らかにされている効果を集約・整理し終末期患者に対する音楽療法の意義を検討することである。第2に先行研究の動向を整理することで、終末期患者に対する音楽療法に関する研究の現状を明らかにし、今後の音楽療法研究への示唆を得ることを目的とする。

### 方法

本研究は文献レビューであり、スコーピングレビューのための報告ガイドライン(PRISMA-ScR)に従い報告する。検索に使用したデータベースは、海外文献はPubmed, CINAHL, Cochran Library, PsycINFOの4つ、日本語文献は医中誌Web, CiNii Researchの2つを使用した。検索式は「music therapy(音楽療法)AND {terminal care(終末期・ターミナル)OR spiritual(スピリチュアル)OR hospice(ホスピス) OR palliative(緩和)}」とした。それぞれ検索式のワードに対応するMeSH, シソーラス用語を検索しそれを用いて同様の検索を行った。検索した文献の中から、本文が英語と日本語以外の言語の場合、原著論文以外や事例研究、文献レビューの場合、日本国内に蔵書がない場合や対象者が成人の終末期患者に限定できない場合、音楽療法の効果について言及がない場合、他の補完代替療法と併せて効果を測定している場合は除外した。研究1では量的研究、研究2では質的研究のみを対象とした。対象文献から音楽療法の効果に関するデータを抽出し、研究1では類似性相違性の観点から帰納的に分類を行いテーマに分類、研究2では抽出したデータを再度カテゴリ化して整理分類を行った。また研究動向の把握のため研究方法や結果等のデータも抽出し一覧表を作成した。

### 結果

研究1では16件の介入研究と8件の観察研究を含んだ24件の量的研究を採択し、5つのテーマ「身体症状の緩和」「精神的な症状の緩和」「他者との繋がり」「スピリチュアルウェルビーイングの向上」「ストレスからの解放感」が抽出された。研究2では10件の質的研究を採択し、8つのサブカテゴリ「気分が変わる」「症状が和らぐ」「音楽療法士との関係構築」「家族や周囲との繋がり」「メッセージ」「回想」「感情表出」「新たな意味付け」「主体性の回復」から成る4つのカテゴリ【感覚の変化】【関係性の強化】【感情の誘引】【実存的苦痛の癒し】が生成された。

### 結論

本研究の知見は、終末期患者に対する音楽療法の全人的な効果を示し音楽療法研究の基礎資料となることが期待できる。音楽療法は多くの場合終末期患者の感覚、感情に作用することを通して苦痛を緩和しており、音楽療法士の専門的介入によって音楽療法が終末期患者に対する全人的ケアとして機能していることも示唆された。今後はエビデンスレベルの高い研究を行うのと同時に、客観的評価が難しい音楽療法の効果について事例研究の結果も重視することや、リスクを踏まえて実践を推進していくことの意義が示唆された。また本研究において音楽療法の全人的な効果を整理して示したことは、全人的ケアの方法を具体的に検討する一助になると考えられる。